

コロナ禍の中でもできるだけ実践に即した体験学習を

麗澤中学・高等学校の実践

「国際社会で活躍する日本人の育成」を目指す麗澤中学・高等学校では、コミュニケーションツールとして英語で叡智の扉を開くことを目標として、さまざまな英語教育のプログラムを実践し続けている。



「VIRTUAL GLOBAL GATEWAY」の体験をする生徒。

生徒の総合的な力を引き上げる「目的です」(川部先生)
英語体験学習施設をバーチャルで
こうした試みの一環として行われたのが、体験型英語学習 TGG「VIRTUAL GLOBAL GATEWAY」である。
東京・お台場にある体験型英語学習施設である「TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG)」は、買い物や飛行機への搭乗などの体験を英語を使ってすることで英語を実践的に使えるようにする体験ができる人気スポットだが、この体験を学校や自宅



「VIRTUAL GLOBAL GATEWAY」の画面。「数は?」「トッピングは?」など、現実世界と同様に店員が聞いてくるのに対して、的確に注文する。自分の姿も画面内に映し出される。

でバーチャルに体験できるようにしたものだ。
ヘッドフォンとマイクを装着した生徒は、パソコンの画面を見ながらファストフード店で店員に食べ物や飲み物を注文するなどの体験をする。画面には、店員や自分、友だちの姿が映し出され、リアルに近い体験がで



麗澤中学・高等学校 川部翔 教諭

千葉県柏市に広大な敷地を有し、緑豊かな環境に立地する麗澤中学・高等学校は、1935年に設立された道徳科学専攻塾を前身とする中高一貫校である。教育理念の一つに「国際社会で活躍する日本人の育成」を掲げ、英語教育に力を注いでいる。目指す英語力は、「コミュニケーションツールとしての英語で学びを深める」力。日本人教員のほか、7名のネイティブ教員が授業を担当し、英語の4技能を磨く。特に、ネイティブ教員との英会話の授業は少人数制で生徒の発話量を増やし、より積極的に英語を使う機会を設けている。近年はタブレットを配付して授業で用いるなど、ICTも積極的に採り入れている。
高2からは、将来英語を使う進路や海外の大学への進学を希

きる。好奇心旺盛な生徒たちは初めての体験に心を躍らせながら積極的にバーチャル体験し、英語での対話を楽しんでいた。「コロナ禍による校外学習の自粛などもあり、TGGに行きづらい中で、バーチャルな体験ができるのはとてもよいですね。生徒も多くの知的な刺激に恵ま

望する生徒たちを中心に、実践的英語教育を展開するIL(インターナショナルリーダーシップ)コースを選択することができ。英語科・教務部国際担当の川部翔教諭が説明する。
「ILコースでは、英語の基礎力の上にコミュニケーション能力をしっかりつけるために、生徒にスピーチやプレゼンテーションを多く課しています。生徒が3〜4人のグループをつくり、ニュースキャスターに扮して15分間のニュース・プレゼンテーションを行うといった実践的な活動を通して発信力と自信を育みます。このコースは、『英語を』学ぶのではなく、『英語で』学ぶコースであり、主体的に考え、発信できる力を養うプログラムによって、高度な英語力と思考力を育てます」

宿や現地で披露する踊りの練習、帰国後の振り返りなどの研修を実施するのだが、2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、海外語学研修そのものが中止となってしまった。そのような状況の中でも、生徒たちができるだけ実践的な英語教育を受けられるようにとの思いから、新しい試みが採り入れられている。そのひとつがオンライン英会話の充実だ。
「ILコースの生徒には、1日1回25分のレッスンを必須として課し、アウトプットの強化につなげています。毎日でも受講可能なので、積極的な生徒は、より実践的に英語を使う体験ができます」(川部先生)

コロナ禍の中で採り入れる進取の取り組み

また、1週間にわたってタクトピア株式会社運営するイングリッシュキャンプに参加する3人に1人の割合で留学生が生徒とコミュニケーションし、グローバルイシューについて、英語でのディスカッションやプレゼンテーションに挑むものだ。「英語を使わなければならぬ状況に改めて身を置くことで

VIRTUAL GLOBAL GATEWAY とは?

2018年9月に東京都に開設された体験型英語学習施設、TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) が2020年11月に提供開始したオンラインサービス。飛行機でのやり取り、カフェでの注文などTGGで行える体験型の英語学習をPCやAndroid端末、VR専用端末を使うことで、オンラインで受講できる。

現在、公開されているプログラムは飛行機・カフェ・食料品店だが、2021年4月に向けてレストラン、空港の入国審査、ホテルのロビー、大学キャンパスなどのプログラムが順次公開予定。国内にいながらして、海外に行ったときにできる体験を自身のアバターを通してバーチャルで体験できる。

VIRTUAL GLOBAL GATEWAY の特徴

- 「リアルを超えたバーチャル異文化体験」
- ①英語を使う「体験」を提供
CGで再現された世界にアバターとして入って課題を解決することで、英会話の練習ではなく海外さながらの体験が可能。
- ②TGGスタッフが体験をリード
画面の中にいる話し相手はAIやプリセット音声ではなく、TGGスタッフが操作するアバターだから人間ならではのダイレクトな反応が返ってくる。
- ③様々なデバイスで体験可能
VR専用端末だけではなくWindows PCやAndroid端末など一般的な端末で受講可能。
※ Chrome OS, iOSは2020年12月現在対応準備中

れました。今後VRなどの技術が発達して、オンラインでの授業も増えていくでしょうが、いろいろなることにチャレンジしていきたいですね」(川部先生)
何かと制約の多い昨今ではあるが、創意工夫とチャレンジ精神があれば乗り越えていくことができるのだろう。